

奥越エリア・六呂師高原のアウトドア観光 <コンセプト>

アウトドアを軸とした誰もが自然を楽しめる山岳高原エリア

- ・奥越エリアの雄大な自然と、そこに育まれる歴史や文化、それらを楽しむアウトドア・アクティビティの拠点としての機能が最大の特徴
- ・自然の成り立ちとその豊かさ、そこに育まれる歴史や文化を体験できる拠点エリアとして、来訪者の誰もが気持ちよくアウトドアを楽しめる環境を創出することを本構想の方針とし、コンセプトを設定

奥越エリア・六呂師高原のアウトドア観光 <目指す姿>

- 自然環境を守りながら活かし体験できるエリア
- 多様なニーズに応え楽しく快適に滞在できるエリア

〔福井県全体の観光における奥越エリアの位置づけ〕

- ・中部縦貫自動車道の開通に伴い、本エリアは中京圏に向けた東の玄関口となるため、道の駅越前おおの荒島の郷を起点に、本県固有の自然資源の価値を伝える発信基地として位置づけ

〔奥越エリアにおける六呂師高原の位置づけ〕

- ・日本一綺麗な星空や高原景観、県内最大の火山地形等、貴重な資源を守りながら活かし、静かで上質な滞在空間を提供するとともに、奥越エリアひいては県内屈指の登山やサイクリング、キャンプ等のアウトドア・アクティビティが集積する一大拠点を目指す

六呂師高原における取り組み

六呂師高原固有の自然景観の改善

- ・六呂師ハイランドホテルや妻平ヒュッテ、六呂師高原スキーパーク等、活用が見込めない施設は撤去を行う“引き算”の景観改良
- ・円山エリアにおいて、ミニ動物園等の老朽化が進む一部エリアは解体を行い、来訪者が滞在できる新たな機能を検討

誘客の柱となる拠点施設の整備・施設のリニューアル

- ・拠点施設の整備（オートキャンプ場・コテージ等）
 - ▶オートキャンプ場 …各サイトに水洗トイレ、炊事場、キャンプ用品等を収納した「ユニットキャンプサイト」を整備
 - ▶コテージ …アウトドア初心者でも宿泊・滞在ができ、周辺のアクティビティを楽しめる機能を充実
- ・トロン温浴施設うらら館の改修：脱炭素に向けた木質バイオマスボイラーの導入。周辺施設や景観と調和した施設外観等への改修
- ・自然保護センターの改修：六呂師高原の自然資源を親子が楽しみながら「体感」できるよう、展示・星空観察棟、自然観察の森等を改修

アウトドア・アクティビティの造成・既存施設の利活用

- ・日本一綺麗な星空を活かした星空観光の推進（星空保護区の認定促進）
- ・レンタルバイク導入やマウンテンバイクを活用したアクティビティ展開
- ・湿原や自然観察の森等を活用した自然観察会等の実施
- ・高原を望みながら牧場見学や飲食等を楽しめる体験メニューの実施

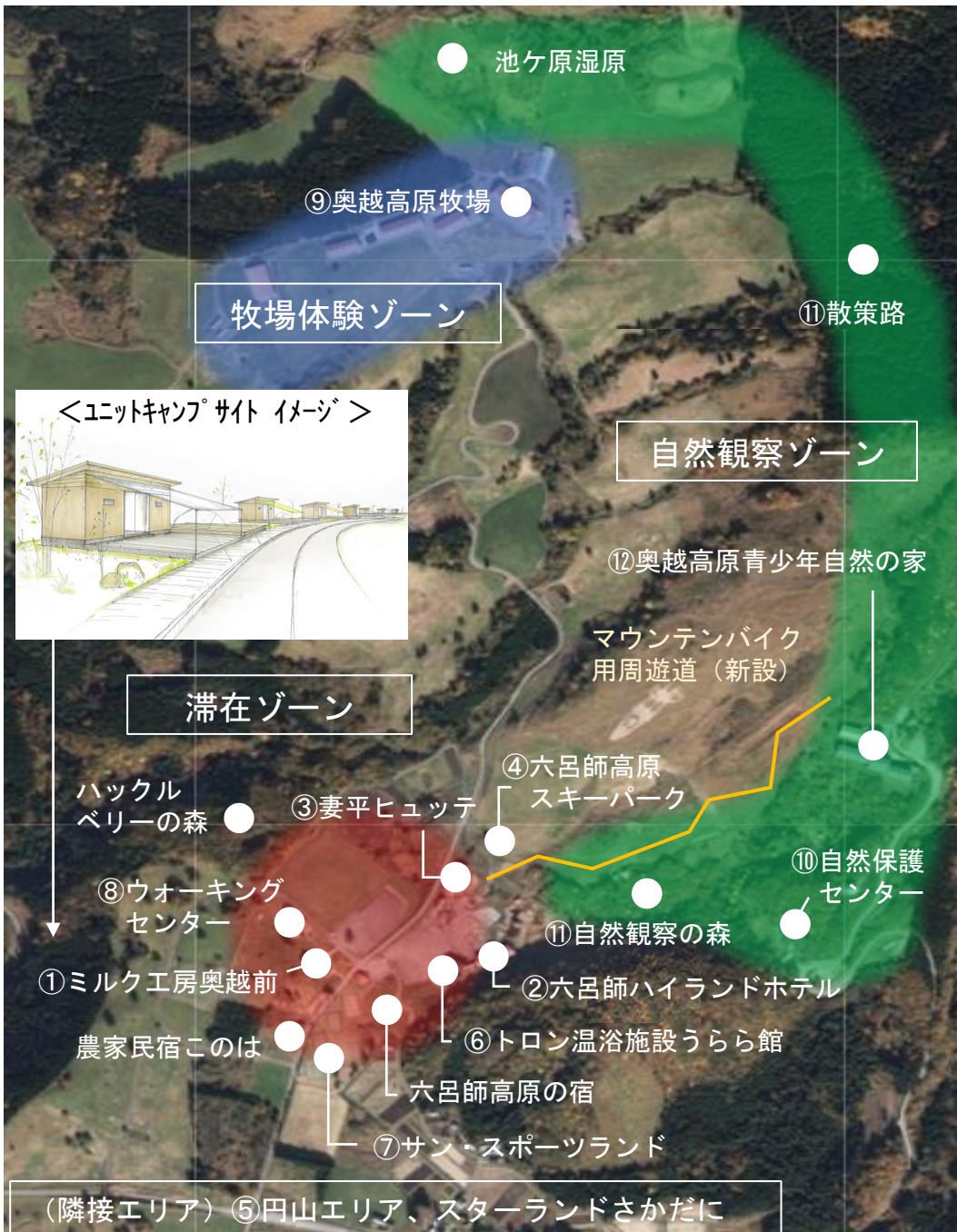
道の駅越前おおの荒島の郷を起点にしたアウトドア観光の展開

ジャパンエコトラックを中心とした広域観光ルートの造成

- ・ジャパンエコトラック登録ルートの拡充検討
 - ▶大野～美濃白鳥サイクリングルート（アルプスの眺望が魅力）
 - ▶大野～池田～鯖江・越前サイクリングルート（里山風景が魅力）
- ・越美北線を活用したサイクルトレインの運行を検討

自然資源の価値や楽しみ方を伝えるインストラクター・ガイドの育成

- ・未経験者でもアウトドアを楽しめる環境整備のため、日本自然保護協会や日本山岳ガイド協会等と連携したアウトドアガイドを育成



新たに整備する施設

〔滞在ゾーン〕

①オートキャンプ場・コテージ等

- ・サイトごとに炊事場、用品等を収納したユニットキャンプサイトを整備
- ・巨岩を活用したフィールドアスレチック、マウンテンバイク道等の整備

解体を行う施設

〔滞在ゾーン〕

②六呂師ハイランドホテル

③妻平ヒュッテ 等

〔自然観察ゾーン〕

④六呂師高原スキーパーク

〔隣接エリア〕

⑤円山エリア

（一部解体後、新たな機能検討）

改修・魅力向上を図る施設

〔滞在ゾーン〕

⑥トロン温浴施設うらら館

- ・木質バイオマスボイラー導入。周辺景観と調和した施設外観等に改修

⑦サン・スポーツランド

- ・グラウンドをイベント等で使える多目的広場として活用

⑧ウォーキングセンター

- ・イベントの屋内スペースやガイドによる自然散策の拠点としての活用

〔牧場体験ゾーン〕

⑨奥越高原牧場

- ・乳製品の加工体験や飲食提供等、楽しめる牧場への機能拡充

〔自然観察ゾーン〕

⑩自然保護センター

- ・自然資源を親子が楽しみながら「体感」できる展示内容等に改修

⑪自然観察の森・散策路

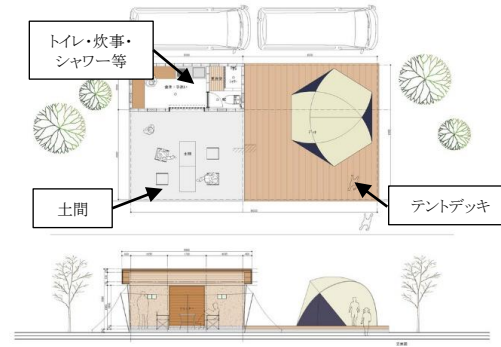
- ・季節ごとに変化する自然資源を来訪者が楽しみ散策できる環境に整備

⑫奥越高原青少年自然の家

- ・Wifi等の通信環境整備によるリモート研修実施や利便性向上

誘客の柱となる拠点施設（オートキャンプ場・コテージ等）概要

配置イメージ



①キャンプサイトイメージ

- ・車の乗入れが可能。各サイトごとに水洗トイレ、シャワー、用品、レンタルバイク等を収納した「ユニットキャンプサイト」

②コテージイメージ

- ・アウトドア初心者でも宿泊・滞在ができ、周辺のアクティビティを楽しめるほか、ワーケーションにも対応
- ・ベッドルーム、簡易キッチン、水洗トイレ、シャワー、BBQデッキテラス、前庭等設置



③管理棟・レストランイメージ

- ・キャンプ・コテージ利用者の受付、レンタル用品の貸出
- ・店内飲食に加え、テイクアウト商品も充実させ、屋外で高原景観を望みながら飲食を楽しめる空間を提供



④フィールドアスレチックイメージ

- ・高原内に現存する巨岩（伏石）を活用したアスレチックやボルダリング等の設置



拠点施設の利用者数（見込み）

- ・合計：約7.5万人（宿泊：約2万人、日帰り：約5.5万人）
（六呂師高原全体の観光客入込数（目標値）は、次ページ記載）

事業目標

項目	現状値（令和元年）	目標値（令和8年）
六呂師高原 観光客入込数 （延べ）	18.6万人	28.0万人
県内客	（8割）14.9万人	（6割）16.8万人
県外客	（2割）3.7万人	（4割）11.2万人

- ・ これまでのスキー場を中心とした誘客から転換し、新たな誘客の柱となる拠点施設の整備や周辺施設のリニューアル等を進め、過去の最盛期の入込数を超える水準を目標値に設定
- ・ 拠点施設の整備やアウトドア・アクティビティの充実に加え、近隣県と連携した教育旅行の誘致・県外への情報発信等を強化し、観光客入込数に占める県外比率の向上と観光消費額の拡大を推進

（令和2年は新型コロナウイルス感染拡大の防止措置をとったため、現状値には令和元年分を使用）

○主なハード事業

- ・北陸新幹線福井・敦賀開業時においては、高原景観の改善（解体対象施設の撤去）に加え、整備・リニューアルする施設の一部プレオープンも検討
- ・中部縦貫自動車道県内全線開通時においては、六呂師高原全体の再整備完了を目指す

	令和4～5年度（北陸新幹線開業まで）	令和6～7年度（中縦道開通まで）
誘客の柱となる拠点施設の整備 (オートキャンプ場・ユテージ等) フィールドアスレチック・マウンテンバイク道等の アウトドアフィールドの整備 既存施設のリニューアル・魅力向上	●————→ 各種設計・調査 整備工事	●————→ 整備工事 等
解体対象となる施設の撤去	●————→ 施設の解体	

一部プレオープン検討

オープン

<概算整備費> 合計：約35～40億円〔民間投資額（想定）を含む〕

（内訳：施設の新設・リニューアル 約30～35億円、施設の解体 約5億円） ※今後の詳細設計等により変動あり

○主なソフト事業

	令和4～5年度（北陸新幹線開業まで）	令和6～7年度（中縦道開通まで）
「日本一綺麗」な星空観光の推進	●————→ ・星空保護区の認定促進 ・星空観光メニュー造成	●————→ ・宿泊セットの星空観光プログラムの 展開拡充
六呂師高原固有の自然資源を活用した アクティビティの拡充	●————→ ・新スノーアクティビティ造成 ・牧場、自然散策メニュー造成 ・音楽フェス等の誘客イベント検討	●————→ ・アスレチック、マウンテンバイク等 を活用したアクティビティ展開
道の駅越前おおの荒島の郷を起点にした アウトドア観光の展開	●————→ ・アウトドアガイドの育成 ・アウトドアの受入環境整備	●————→ ・ジャパンエコトラックの登録ルート 拡充